

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	①
	イ
	②
	エ
	③
	ア
問二	
	エ
問三	
	イ

問四	ア
問五	イ
問六	エ

問七	A
	住む世界
	B
	困惑
問八	ウ
問九	イ

2

問一	1
	イ
	2
	ウ
	3
	ア

問十		
い	の	こ
な	が	の
い	気	ま
ふ	ま	ま
り	ず	木
を	か	暮
し	っ	先
て	た	輩
い	の	と
る	で	顔
。	、	を
	何	合
	も	わ
	見	せ
	て	る

問二	強
	く
	求め
	な
問三	
	自分のこと

問四	イ
問五	ウ
問六	ア
問七	イ

		5	4	3					
⑥	①	①	①	①	問十	問九	問八		
移	技術	オ	イ	エ	A 個性		A		
64	59	54	49	47			B	基礎	
⑦	②	②	②	ウ	問十一	(正答) 何らかの形		を	(傍注)
65	60	55	50	48	ア			き	
⑧	③	③	③	ウ	イ	ア	ち	B	
66	61	56	51	52	④	ウ	徹		
⑨	④	④	④	ア	イ	ア	底的		
67	62	57	53	52	⑤	ウ	に		
⑩	⑤	⑤	⑤	イ	エ	ウ	真		
68	63	58	53	53	エ	ウ	45		
借	断水	エ	力	カ					

(配点)

1	〔問一〕各2点、〔問十〕8点、他各5点	}	計150点
2	〔問一〕各2点、他各5点		
3 4 5	各2点		

【解説】

1 松本祐子「8分音符のプレリユード」(小峰書店)から出題

しました。透子という天才少女が転校してきたことで、優等生の果南は内心穏やかでいられません。それが透子に対する嫉妬からきているものだと思いき、自らの嫉妬心を隠そうとする果南の気持ちを丁寧に取り取りましよう。

問一 A2 関係づけ 知識

A 直前の「そんなことまで噂になっていたのか」から不快な気持ちを読み取れます。「眉をひらく」は「心配ごとがなくなつて安心する」という意味、「眉を読む」は、「人の顔を見て本心を読みとる」という意味です。

B 薫が木暮先輩をうまく説得できないでいる果南のために、なんとか木暮先輩の思い込みを正そうと発言してくれていることから考えましよう。「うみを出す」は、「団体や組織などの内部にある害悪を取り除く」という意味、「しっぽを出す」は「ごまかしがばれる」という意味です。

C 知らない人に待ち伏せされ名前まで呼ばれた透子の気持ちを、その後の透子の態度から考えましよう。「ごさかしい」は「利口ぶつて生意気な」、「しおらしい」は「大人しくてかわいらしい」、「もどかしげな」は「自分の思うようにはよくなってほしくていらいらする」という意味です。

問二 B1 具体・抽象 比較

線①直後にある「どうして、だれもかれもが波多野透子のことを話題にしたがるのだろう」から果南の透子に対するいらいらを読み取りましよう。ア「見世物のように扱われている」

のが腹立たしいのではなく、話題の中心になつていことが腹立たしいのです。ウ「透子の話をするのは不愉快であると薫に：伝えたい」という気持ちは文中から読み取れません。

問三 B1 具体・抽象 比較

線②を受けて、「あたしが波多野透子の(お相手役)? やんごとなき姫君に仕える侍女みたいな?」とあるように、果南は自分が透子に尽くすべき存在、透子あつての存在のように扱われていると感じ、それを「つまらない役回り」だと考えています。果南は透子と「比べられる」ような同等の存在でないことにいらだつていますので、アは不適切です。ウ透子は果南を「まるつきり無視」していることから「命令を：聞かなければならない」というのは不適切です。

問四 B1 理由 比較

線③直後に「まわりがみんな、こんなふうになっているのだとしたら、表面上、このまま、波多野透子の世話係をつづけていくしかないのかもしれない。」とあることから、薫からの評価を聞いて、果南が薫をはじめとした周囲の期待に答え、やりたくもない係を今後も続けるしかないかと判断したことがわかります。これが苛立ちをつのらせた原因だと考えられます。イ「薫が本気で評価」とあるので、「いい加減なことを言」うというのとは不適切です。ウ「心配になつてきた」エ「世話係を続ける自信がない」の部分が不適切です。

問五 B1 具体・抽象 比較

「木暮ファン」の果南が木暮先輩に話しかけられどきどきし

ているさまをからかっている場面です。エ「有頂天うどうてんになっ
て」の部分ぶぶんが不適切ふてきせつです。

問六 B1 具体・抽象 比較

憧あこがれの先輩から話しかけられたのに、その先輩まで透子の話
をしてきた、その時の果南の気持ちを考えます。——線⑤の「ふ
くらみかけた風船：ペシヤンこ」から、期待が**つぶ**された、**が**
かりしたということを読み取りましょう。

問七 B1 理由 関係づけ

——線⑥直後に「名のあるピアノ・コンクールで優勝ゆうしょうしたこ
ともある天才少女が……：入部してくるなんて、とても思えな
い。けれど、そのことを面と向かって先輩に指摘しつてきする勇氣が果
南にはなかった」とあります。このことから、先輩の考えが信
じられず、どう正せばいいかわからず困まどっている二人の気持ち
が読み取れます。

問八 B1 推論 比較

ある語に「へ」をつけてると、その語が本来の意味とはずれ
ていることを示すことができます。木暮先輩は事故にあった透
子のことを気の毒なげかと思つていますが、果南からすれば、透子は
事故によつて、悲劇の天才少女というドラマチックな存在にな
り、平凡へいぶんな自分たちから憐れあはれられるような、気の毒な存在にな
ないのです。——線⑦を含む一文は、果南が考えている部分で
す。だから、あえて「へ」をつけて、果南は透子のことを気
の毒だとは思つていないことを示していると考えられます。

問九 B1 理由 比較

透子を吹奏楽部に勧誘かんきゆうするなんて信じられないという皆みなの気
持ちを読み取りましょう。

問十 B2 推論 具体・抽象 理由

「必要もないのに……そろえ直したり」は、②一連のやりとり
を何も見えないふりをしているのですよね。そうしたのは、
①こつぴどく断られた木暮先輩と顔を合わせるのが気まづかつ
たからです。①気持ち（理由）＋②行動の形で書くこととまり
やすいでしょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従したがっていないものは不正解
とします。ただし、誤字脱字ごじだつじが一つの場合は減点1点、
二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また
解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします

2 養老孟司ようろうもちしの「『自分』の壁かべ」(新潮新書しんしゅうしんしょ)から出題しました。

筆者は、その人の「個性」は、その人自身に自然とあるもので、
世間から押さえつけられても、それでもその人に残っているも
のだと考えています。そして、「個性」を見いだし、社会の中
でそれが受け入れられ、発揮はつきさせるには、まずは「世間並み」
を身につけることが大事だということを主張しています。その
上で、今は世間に、人生における規範きはんのようなものがないこと
を批判ひはんしています。

問一 A2 関係づけ 知識

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認かくにんして入れま
しょう。《1》の前で「私はどっちでもいい」とあり、後で「どっ

ちでもいい…」と英語で言うのは、意外と面倒めんどうとあるので、逆接の「ところが」が入ります。《2》の前では「黙もくってお茶が出てくる」とあり、後で「聞いてくることもある」と例外を述べていますので、「言うまでもなく」の意味の「もちろん」が入ります。《3》の前にある「…他の分野では…」の例として「学問の世界」が挙げられているので、ここには「たとえば」が入ります。

問二 **B1** 理由 関係つけ

——線①の直後から、「このエピソードをどう考えるべきか」が述べられています。読み進めると「でも」、日本の大学生に…と考えたほうがいいのではないのでしょうか」とあるので、ここから答えが引き出せることが分かります。筆者は、「そういう意味での『自己』や『個性』がないのだとすれば…そういうものを強く求めない文化が日本にあるからだ」と考えています。

問三 **B1** 理由 関係つけ

問二でもありましたが、筆者は「『自己』や『個性』」の出し方はその国の文化によるものだと考えています。英語圏えいごけんの文化は「常に周囲がその人に対して『自己』をつくるように求めてくるものです。「コーヒーにしますか？ 紅茶こうちゃにしますか？」と聞いてくるのは、「自分のことは自分で決める」ことを大事にしているからです。

問四 **B1** 具体・抽象 比較

「適当ていとうでないもの」を選ぶ問題です。「自分はこういう時に

コーヒーと答える人間だ」という項目が「自分」の構成要素として確立されます。…「基本的に自分はチキン派はだ」という項目が立ちます。「の部分から考えましょう。質問に答えるうちに、自分の好みや、考え、ふるまいが決まっていくということです。イ「うまくアピールできるようになる」は、「自分」を出すときの表現がうまくなる、ということですから、別の話です。

問五 **B1** 関係つけ

日本人は、「自分自身で決めたいこと」は少なく、「どつちでもいいよ、そつちの都合で」という人が大半です。些末さまつなことは、相手に合わせる文化があります。そのことから考えましょう。

問六 **B1** 理由 比較

「世間と折り合うこと」の大切さは直後の「こういう話をすると」以降いこうに示されています。世間と折り合えるところは折り合い、どうしても折り合えない部分、それがその人の「個性」だとあります。また、「個性」を認まめてもらうには、「世間」の常識を身につける必要があります。イ「あるかどうかもわからない」「個性」・「日本の社会の発展はつてんのため」、ウ「日本の社会は、『個性』や『自己』がある人を求めている」、エ「他人の…優やさしい人間を育てる」などの表現が本文の内容からは読み取れず、不適切です。

問七 **B1** 具体・抽象 比較

「そういう」とあるので、——線⑥の直前の内容を読み取りましょう。ウ本文中の「徹底的てつていに争う」というのは、折り合え

ない部分については譲らない、という意味で使われている言葉ですから、「敵に回して」と言う表現は不適切です。

問八 **B1** 具体・抽象 関係づけ

「A いる師匠」とあることから、**A**には師匠がどんな人が表すことが入るはずです。——線⑦の八段落後に、「師匠が基礎をきちんと学んで、その道をきちんと歩んでいる」とあります。**B**——線⑦の前で弟子は「まず徹底的に師匠の真似をさせられます」とあります。これと同意の表現を九字でさがしましょう。

問九 **B1** 具体・抽象 関係づけ

——線⑧の直後の段落で、同じ内容を言いかえています。ここからあてはまることばをぬき出しましょう。

問十 **B1** 具体・抽象 比較

直後の段落に、「本来は、人生はどうやって生きていけばいいか、といったことについての世間の基準、ものさしがあるべき」とあります。ウ「答え」を教えてください」という部分が不適切です。

問十一 **B1** 関係づけ

抜けている二文は、お茶を出されたときの、日本人の反応です。

3 **A1** 知識

四字熟語の問題です。このように、同じ字が繰り返し使われ

る表現は多いので、注目してみましよう。

- ① 以心伝心…無言のうちにお互いの気持ちを通じること。
- ② 適材適所…才能や能力に応じて適した地位におくこと。
- ③ 絶体絶命…どうしても逃れることのできない困難な場合や立場。「体」を「対」としないように注意。
- ④ 自由自在…どのようになでも思いのままにすること。
- ⑤ 一長一短…長所もあるが、短所もあること。

4 **A1** 知識

語の識別の問題です。

- ① 「冷え込む」という動詞を修飾していて、活用しないので、副詞です。
 - ② 言い切りの形は「健康だ」となり、形容動詞です。
 - ③ ものの名前なので、名詞です。
 - ④ 言い切りの形は「飛ぶ」となり、動詞です。
 - ⑤ 「魚」という名詞を修飾していて、活用しないので、連体詞です。
- ア「私」は名詞。イ「休む」は動詞。ウ「静かだ」は「静かな」のように活用するので、形容動詞。エ「こんな」は、「こと」を修飾し、活用しないので、連体詞。オ「おそらく」は活用せず、「ふるだろう」を修飾する副詞。